

蟹江北中学校 令和5年度学校評価のまとめ

(1) はじめに

- 保護者と生徒の回答は、全ての項目で肯定的な評価の割合が否定的な評価よりも高くなっておりよい傾向であった。教師の回答もほとんどの項目で肯定的な評価の割合が高かった。

特に、「学校生活を楽しく送ることができているか」「学校のルールや約束事を守って生活できているか」の質問において、保護者・生徒・教師ともに90%以上が肯定的な評価をしている。今後も、生徒の生活の様子に目を配り、生徒が安心して落ち着きのある学校生活を送れるよう心がけていきたい。

(2) 成果

- 1 「学校生活を楽しく送ることができているか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに90%と高い。保護者・生徒・教師ともに肯定的な評価の割合が高いのは、今年度は、修学旅行や学校祭などの行事に感染症対策などの制限を設けることなく実施することができ、生徒にとって充実した学校生活を送ることができたからと考えられる。また、保護者の方にも感染症対策などの制限を設けることなく学校祭や授業参観など参観していただく機会を設け、学校での生徒の様子を見ていただくことできたからと考えられる。
- 2 「学校生活で時間を守って行動することができているか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに80%以上と高い。保護者・生徒・教師ともに肯定的な評価の割合が高いのは、集団生活の中で時間を守って行動することの大切さを実感していると考えられる。
- 3 「学校のルールや約束事を守って生活できているか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに90%以上と高い。保護者・生徒・教師ともに肯定的な評価の割合が高いのは、校則も守ろうという気持ちを保っているためではないかと考えられる。
- 5 「時と場に応じた言葉遣いができているか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに80%以上と高い。保護者・生徒・教師ともに肯定的な評価の割合が高いのは、時と場に応じた言葉遣いを意識することの大切さを実感していると考えられる。
- 7 「いじめや差別をされていないか」については、「されていない」「あまりされていない」と回答した割合が保護者・生徒・教師ともに90%と高い。なお、「まあまあされている」「されている」という生徒について、学級担任を中心とした丁寧な聞き取りとその内容を基に事実確認をし、支援・指導を行っている。あわせて、解決済みの事案も含め、人間関係等を注意深く見守りながら対応している。
- 8 「いじめや差別をしていないか」については、「していない」「あまりしていない」と回答した割合が保護者・生徒・教師ともに90%と高い。なお、「まあまあしている」「している」という生徒について、7「いじめや差別をされていないか」と同様の対応をしている。
- 10 「係、当番、委員会などの活動や自主的に人のためになる活動に進んで取り組んでいますか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに約90%と高い。保護者・生徒・教師ともに肯定的な評価の割合が高いのは、自主的に人のためになる活動に取り組むことが社会や学校生活の中で大切なことであることを実感していると考えられる。
- 13 「学校行事や総合的な学習の時間などに真剣に取り組んでいるか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに90%と高い。保護者・生徒・教師ともに肯定的な評価の割合が高いのは、修学旅行や野外教室、職場体験や職場見学、学校祭などの行事やそれに伴う総合的な学習の時間の学習に対して、生徒が意欲的に取り組み、実践しようとする気持ちが高まっているからと考えられる。

- 14「道徳の授業を通して、よりよく生きようという気持ちをもつことができていたか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに約80%であった。2019年度に道徳が教科化され、教師の力量が向上したことと、生徒が「考え、議論する道徳」の授業に慣れ、実践しようとする気持ちをもちやすくなったことが理由として考えられる。

(3) 課題

- 4「交通ルールや公共のマナーを守って生活できているか」については、保護者と生徒ともに肯定的な評価の割合が90%以上と高い。しかし、教師は肯定的な評価の割合が約50%となり、保護者・生徒の捉えと教師の捉えに差が見られた。現状の登下校について、「自転車の並進」「広がっての歩行」等の情報を地域からいただくこともあり、教師が直接指導する機会もある。軽微で済んでいるが、自転車通学者と車の接触事故も起きている。生徒全員が安全に登下校するために、教師と保護者が協力して生徒の交通ルール遵守とマナー向上の意識を高めていくことが急務である。
- 6「挨拶や素直な返事ができているか」については、保護者と生徒ともに肯定的な評価の割合が約80%と高い。しかし、教師は肯定的な評価の割合が約75%となり、保護者・生徒の捉えと教師の捉えに差が見られた。挨拶や返事は学校生活だけでなく、卒業後も必要になると考えられるため、今後も継続して指導をしていきたい。
- 9「情報機器の利用において、使用時間の管理や情報モラルの遵守を意識して生活できているか」について、生徒の肯定的な評価の割合は85%と高い。しかし、保護者や教師の肯定的な評価の割合が約50%となり、生徒の捉えと保護者・教師の捉えに差が見られた。学校では、情報モラル教育に取り組んだり、家庭と協力してメディアコントロールの取組を行ったりしている。今後も、情報機器の適切な利用について、使用時間の管理や情報モラルの遵守を意識することができるよう取組を継続的に行っていきたい。
- 11「授業や学習に対して主体的に学ぶ姿勢で取り組んでいるか」については、生徒と教師ともに肯定的な評価の割合が80%以上と高い。しかし、保護者は肯定的な評価の割合が約75%となり、生徒と教師の捉えと保護者の捉えに差が見られた。生徒同士の学び合いを取り入れた授業スタイルを推進してきており、生徒が主体的に学ぶ様子が多く見られる。今後も、生徒一人一人が主体的に学び、互いに高め合っていくためにも、工夫した授業づくりを進めていけるように、教師の力量向上に努めていきたい。
- 12「予習・復習や自主学習など、家庭での学習ができているか」については、教師の肯定的な評価の割合が80%と高い。しかし、保護者や生徒の肯定的な評価の割合が約60%となり、教師の捉えと保護者・生徒の捉えに差が見られた。保護者は、生徒の家庭学習の取組の様子などから予習・復習や自主学習の取組の習慣が不足していると感じているのではないかと考えられる。今後は、基礎学力の確実な定着につながるように生徒一人一人の理解度に合わせた指導や支援など、学校と家庭で協力していける工夫していかなければならないと考える。
- 15「進路選択等に意欲的に取り組み、自分の将来について前向きに考えたか」については、教師の肯定的な評価の割合が90%と高い。しかし、保護者や生徒の肯定的な評価の割合が約60%となり、教師の捉えと保護者・生徒の捉えに差が見られた。生徒の自己評価を各学年別に見ると、1・2年生での肯定的な評価の割合は約70%、3年生での肯定的な評価の割合は約90%となっており、3年生になると肯定的な評価の割合が高くなっている。今後も各学年で進路指導を中心に将来の職業選択も視野に入れながら、生徒一人一人の希望や夢を大切にされたキャリア教育を推進し、生徒が自分の将来を考える力を高めていく支援をしていきたい。